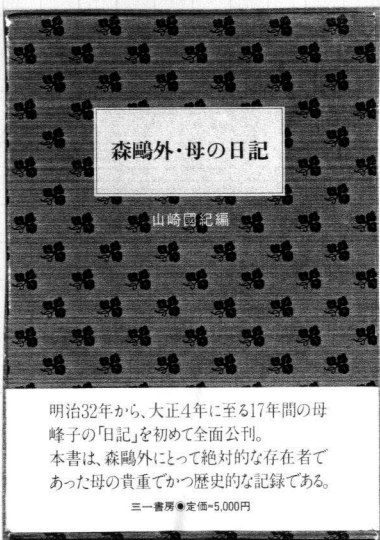


森峰子 幼名 森鷗外の母。弘化三年生見國津和野生れ、大正五年三月二十八日歿（八四六―九二六）。本名ミチ子。津和野藩醫森玄仙（白仙）の一女。文久元年吉次泰造（森家）入りし静泰と改め、維新後森静男と稱す。を婿養子と迎へ、長男鷗外以下孰れも名を成した四人の子女を儲けた。

『森鷗外・母の日記』（山崎國紀編、昭和六十年十一月三十日二一書房）があり、森於菟の「鷗外の母」（『臺灣婦人界』昭和十七年八月十日號掲載、翌年補筆）と二十七年回忌記念として別刷配付、のち單行書『森鷗外』二十一年七月二十日養徳社に収録）が詳しい。



明治32年から、大正4年に至る17年間の母峰子の「日記」を初めて全面公開。本書は、森鷗外にとって絶対的な存在者であった母の貴重かつ歴史的な記録である。

三一書房 定価・5,000円